

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	3	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献のことばと思想「リグヴェーダからブラーフマナへ」				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群Vedaに見られる当時の「世界理解の学」を正確に把握すべく努める。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などを確認し、合わせて、我々の知識の源泉について、批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の『リグヴェーダ』(B.C. 1200頃編集)から「ブラーフマナ」と呼ばれる祭式文献群(B.C. 600頃に懸けて順次成立)までを対象に解説する。原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インド学、インド哲学・文献学、「南アジア」</li> <li>2 インダス文明と「インド」</li> <li>3-4 アーリヤ人とその言語文化の背景、インドヨーロッパ語族</li> <li>5 リグヴェーダ「天地の歌」解説</li> <li>6 インドラ讃歌解説</li> <li>7-8 DevaとAsura、ヴァルウナ讃歌解説</li> <li>9-10 創造讃歌、プルシャ(「人」)の歌</li> <li>11 アタルヴァヴェーダ紹介と解説</li> <li>12 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式、ヴェーダ文献群の構成</li> <li>13 ブラーフマナ文献の祭式解釈学</li> <li>14-15 ブラーフマナの神話</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後藤敏文	4	火	3
◆ 講義題目	「業と輪廻」理論の成立：ヴェーダから仏教へ				
◆ 到達目標	「輪廻」と「業」の理論が確立する過程を確認し、仏教興起の背景を知る。合わせて、我々の知識の源泉について、批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インドイラン共通時代に遡り、リグヴェーダ、ブラーフマナからウパニシャッドに懸けての思想展開、さらに、自由思想家、ブッダが出現までの「業と輪廻」を巡る思想史を追う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 天界での合一(インドイラン共通時代の死の観念)</li> <li>2 天界での死(ブラーフマナにおける輪廻思想)</li> <li>3 祭式を巡る思弁から普遍的思想へ</li> <li>4 シャーンディリヤの梵(brahman)我(ātman)同一説(ブラーフマナとウパニシャッドとの間)</li> <li>5 死後の道：五火二道説の諸系統とその背景</li> <li>6-7 ウッターラカ・アールニの「有」の教説</li> <li>8 ヤージュニャヴァルキヤと神学者たちの論争</li> <li>9-10 ヤージュニャヴァルキヤのアートマン論</li> <li>11-13 「六師外道」とジャイナ</li> <li>14-15 ブッダの答え</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	配布資料または指示する書物(原典の訳を中心)に基づいてレポートを提出してもらう。100%これによって評価する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉水清孝	4	水	4
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	マウルヤ王朝成立からイスラーム教徒による北インド支配までの、ほぼ1500年間に渡る時代のインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。</p> <p>01時代背景の変遷：古代から中世へ；02ヒンドゥー法典：バラモンによる初期中世インド社会の規範；03反バラモン思想としての仏教教理；04バラモン教学（1）：二元論（サーンクヤ）と範疇論（ヴァイシェーシカ）；05バラモン教学（2）：言語の構成要素（文法学）；06バラモン教学（3）：語の認識から文の認識へ（文法学・ミーマーンサー）；07バラモン教学（4）：聖典論と倫理（ミーマーンサー）；08バラモン教学（5）：ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）；09-10仏教知識論：認識論と論理学；11ヒンドゥー教（1）：ヴィシュヌ神とその化身；12ヒンドゥー教（2）：シヴァ神と女神たち；13-15：ヒンドゥー教（3）：ヴィシュヌ教とシヴァ教の神学</p>				
◇ 成績評価の方法	（○）筆記試験 [70%]・（○）出席 [30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと。参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 概 論	2	教授 桜井宗信	3	水	1
◆ 講義題目	インド仏教史概説-その1-				
◆ 到達目標	釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>釈尊（紀元前5世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。</p> <p>講義の主なトピックは次のようである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：釈尊の生涯と主な事蹟</li> <li>2：釈尊の思想</li> <li>3：初期仏教教団の成立と展開</li> <li>4：アショーカ王と「法」</li> <li>5：「説一切有部」を中心とした部派の思想</li> </ol>				
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験 [ %]・（○）レポート [100%]・（ ）出席 [ %] （ ）その他 [ %]				
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。				
その他： 最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。					



授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 各 論	2	教授 後藤 敏文	5	月	5
◆ 講義題目	古インドアーリヤ語歴史文法入門				
◆ 到達目標	古インドアーリヤ語の音韻と形態の構造を、歴史文法を基に理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>インド・ヨーロッパ語比較言語学の知見に立って、古インドアーリヤ語文法の主な骨組みを概観する。文法をより原理的に組み立てることによって、古インドアーリヤ語（ヴェーダ語、サンスクリット語）文法を理解する際に必要とされる「暗記」項目の数を減らすよう努める：1. 印欧祖語の音韻組織から、インドイラン祖語、インドアーリヤ語への歴史的展開、2. 名詞活用の構造とその成立原理、3. 動詞語幹の形成法、4. 動詞の「時制」、態、法の形態と機能。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方（50%）、期末テスト（25%）、与えられた課題に対する調査回答（50%）。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識、または印欧語比較文法、ギリシャ語等の初等知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井 宗信	5	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』（rGyud sde spyiḥi rnam gshag）の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p>				
◇ 成績評価の方法	（ ）筆記試験 [ % ]・（ ）レポート [ % ]・（○）出席 [70%] （○）その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa、『Sa skya 派全書』Vol.2（東洋文庫刊）、pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続きbSod nams rtse moの『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊)、pp.1-37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	非常勤講師 小林 守	集 中 (5)		
◆ 講義題目	チベット中観思想史				
◆ 到達目標	ツォンカパ中観説の特徴及びサキャ派によるツォンカパ批判の論点を文献に即して検討し、チベットにおける中観思想の多様な展開を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教史においてツォンカパの出現は時代を画するものであった。以後、彼の学系にあるゲルク派が勢力をえてゆくが、その一方でそれに対抗した人々も少なくなかった。この授業では、特にツォンカパの中観説を批判したサキャ派論師をとりあげる。チベット中観思想史を概観した上で、いくつかの蔵外文献を読みつつ、ツォンカパ説の独自性を考えゲルク派/サキャ派の論争の流れを追うことにより、豊かに展開したチベット仏教の一側面をあきらかにする。				
◇ 成績評価の方法	リポート [40%]、出席 [30%]、その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：出席者はチベット語とサンスクリット語の基礎知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	5	月	4
◆ 講義題目	仏教文学選 Buddhacarita				
◆ 到達目標	古典サンスクリット語文献の成立事情に留意しながら、文献学的・言語学的訓練を行う。仏教とその背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の文学作品の一つといわれる Aśvaghoṣa 作 Buddhacarita を読む。第Ⅲ巻から。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	Johnston 版を基礎にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	6	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選「祭主の章」				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の散文文献と考えられるヤジュルヴェーダ・サンヒターから、祭主の章を取り上げる。前年度のMSに続き、KS、TS等を扱う。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、祭火を巡る思弁を中心に、祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらう。予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück、Mayrhofer を座右に置くこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	5	火	2
◆ 講義題目	インド哲学文献講読				
◆ 到達目標	インド哲学の基本的なサンスクリット原典を読み、インド哲学の発想法を理解すると共に、散文で記された議論の進め方を習得する。哲学書に限らず、インドの論書の多くは基本典籍の註釈であるので、本文の註釈の仕方にも注意して読み進める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>精神と物質の徹底した二元論を説くサーンクヤ思想は、インド哲学の初期の時代に優勢であったが、「原因の中にあらかじめ内在していたものが結果として顕現する」というサーンクヤ学派の因果論は、後代においても影響力を保ち、他学派に受け継がれた。今学期は、完成されたサーンクヤ体系を提示する Sāṃkhyakārikā とその入門的註釈書 Gauḍapādabhāṣya のうち特に因果論を論ずる諸節を講読し、サーンクヤ思想における「顕現」という概念を考察する。毎回出席者全員にテキストを輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 (講読した範囲からの抜粋の和訳) [50%] ・ (○) 授業での貢献度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	6	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。既存の日本語訳がないものを取り上げるが、英訳を配布し批判的に検討する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴィシュヌ神の化身クリシュナは、現代においてもヒンドゥー教徒の間で最も親しまれている神である。牛飼いの村に牧童として生まれ、怪力を発揮しつつ成長し、遂には悪王カンサを倒すあらすじの「クリシュナの伝記」には、『プラーナ』と総称される膨大なヒンドゥー教神話文献群の中に幾つもの version があるが、授業では、比較的叙述が簡素な Viṣṇupurāṇa 第5巻を取り上げる。今学期は冒頭の「クリシュナの誕生」から読み始める。毎回出席者全員にテキストを輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 (講読した範囲からの抜粋の和訳) [50%] ・ (○) 授業での貢献度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="radio"/> 出席 [70%] <input type="radio"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima、山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="radio"/> 出席 [70%] <input type="radio"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y.Ejima、山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					



授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	3	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅰ</p> <p>◆ 到達目標 (1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。 (2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、解釈力の養成を計る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 ( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 藤田光寛：『古典チベット語文法』(非売品；インド学研究室に備え付けがある)</p> <p>その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた充分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 ( ) 筆記試験 [ % ] ・ ( ) リポート [ % ] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Tāranātha：『インド仏教史』(コピーを配布する)</p> <p>その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

